

●新学長紹介

規矩大義



関東学院大学学長

大野功一前学長の任期満了に伴い、二〇一三年十二月十九日付で規矩大義理工学部教授が学長に就任した。

規矩新学長は一九六三年兵庫県生まれの五〇歳。一九九三年九州工業大学大学院工学研究科設計生産工学専攻博士課程修了。博士(工学)。横浜国立大学工学部助手、佐藤工業株式会社中央技術研究所研究員を経て、二〇〇二年四月に関東学院大学工学部土木工学科助教として着任。その後、二〇〇七

年工学部社会環境システム学科教授、二〇一二年工学部長、学校法人理事。

学外では、消防庁市町村災害対応支援アドバイザー、土木学会及び地盤工学会での委員・委員長などを務める。

専門は地盤工学、地盤防災工学。二〇年以上にわたり地震時の液状化に関する研究に従事している。共著書に『基礎から学ぶ土質工学』『建築と土木の耐震設計』などがある。

新学長は次のように語る。

「就任以来、この学校には変えていかなければならない『ハード』と、高めていかなければいけない『ソフト』があると感じている。学生を支える私たち教職員がさらに熱い気持ちを持ちながら学生に接することで、より質の高い教育ができると信じている。気持ちが変われば、行動も変わるはず。行動が変われば習慣となり、未来も変わる。社会人として、どこに出しても誇れる学生を輩出したいという気持ちで、教育者としての原点。その思いを高めていくことが、学長である私の仕事だと感じている。学生たちに熱い気持ちを伝えられる教職員がいる学校が、大学の理想の姿だと思っている。」

●連盟二コース

「国の補助金等に関する協議会」

(第二回)開催

平成二十六年二月六日、アルカディア市ヶ谷において「国の補助金等に関する協議会(第二回)」を開催した。

九七の加盟大学より二五名の教職員が参加し、平成二十六年度政府予算案のうち、私学助成の概要及び国公私立を通じた大学教育改革の支援に関する政府予算案について、文部科学省担当者による報告・説明、質疑応答により理解を深めた。また、「国の補助金に関する大学の取り組み」として、広島修道大学及び芝浦工業大学による事例報告と質疑応答を行い、国の補助金に関する事業の支援体制や課題などについて共有した。

「改正労働契約法の特例法に関する説明会」開催

先般、改正労働契約法の特例を設ける「研究開発システムの改革の推進等による研究開発能力の強化及び研究開発等の効率の推進等に関する法律」及び「大学の教員等の任期に関する法

律」の改正法(以下、「特例法」という)が平成二十五年十二月十三日に公布され、大学等及び研究開発法人の教員などについて、無期労働契約に転換する期間を五年から一〇年に延長することなどが定められた。これらの特例法が公布されたことを受け、平成二十六年二月十九日、アルカディア市ヶ谷において「改正労働契約法の特例法に関する説明会」を開催した。

当日は、八五の加盟大学から一八〇名の教職員が参加し、文部科学省の説明により、特例法の内容について理解を深めた。

その後、改正労働契約法に関するプロジェクトにおいて整理した特例法に関する質問内容(一 改正法の適用範囲について)(二 改正労働契約法第一八条第一項の通算期間について)(三 任期法との関係について)などについて文部科学省から説明があった。

また、フロアからも多くの質問が出され、特例法の内容について理解を深め、加盟大学における今後の雇用・人事管理などを考える契機となる説明会となった。

大学時報・年間総目次

第三五〇号（二〇一三年五月） 第三五五号（二〇一四年三月）

第三五〇号（二〇一三・五）

巻頭言 叡智が世界をつなぐ 滝澤 正

巻頭論文 人材育成に向けた大学の役割

座談会 学生の主体性を引き出す大学教育とは 高野二郎

川島堅二／大野高裕／小林 浩／（司会）兼高

聖雄

特別寄稿 主体性と社会人基礎力の育成に向け
て 諏訪康雄

私大連盟アドミニストレーター研修最終レポート

「所属大学の改善提案」の採択にあたって 柴 良治

社会が求める大学への転換——既成概念を破り、
今できること 北谷真理

特集 今こそ、IRの導入を！

大学ガバナンスを支援するIR——その基本原
理とは 山田礼子

積極的情報公開が大学改革を進める 山下研一

中退予防のための教学IR 山本 繁

Institutional Researchへの示唆——企業、米国

大学からの視点 大山篤之／小原一仁

明日への試み

同志社大学グローバル地域文化学部
グローバル化する世界への複眼的な視点 松本賢一

小特集 自然災害にどう向き合うか——東日本大

震災その後

東日本大震災と学術調査研究 河田恵昭

学生が身につけるべき危機管理の素養

緊急時の大学広報とメディアの活用 藤本一雄
大規模自然災害時の大学間連携 関谷直也
風間規男

ずいそう

私と釣り 長田豊臣

わが街——大学のある風景

名にし負う賀茂の神山——京都市北区 小林一彦

わが大学史の一場面——日本の近代化と大学の歴

史

私立大学の建学と公共性の担保——大学自立へ

の一つの事例として 小池田富男

加盟校の幸福度ランキングアップ《大学発レトル
トカレー編》

「カレー二十皿で、ポプラの苗木が一本増えま
す。」愛知大学 樋口裕嗣

大学オリジナルカレープロジェクト・甲南大学
藤本佳和

大学の原点、創設者の思いをカレーに・流通科
学大学 足立 明

クローズアップ・インタビュー

ウエイトリフティング選手 三宅宏実さんに聞
く（聞き手）山岡三子

新会員代表者紹介

村田晃嗣（同志社）

奥島孝康（白鷗大学）

加納孝代（活水学院）

細川涼一（京都橘学園）

佐藤和人（日本女子大学）

馬場善久（創価大学）

勝崎裕彦（大正大学）

吉岡俊正（東京女子医科大学）

松本宜郎（東北学院）

新学長紹介

田島 眞（実践女子大学）

高橋敏夫（拓殖大学）

丸山康人（四日市看護医療大学）

新加盟会員大学・学長紹介

筑紫女学園大学

若原道昭（筑紫女学園大学）

大学点描 上智大学

だいがくのたから 東北学院大学

第三五二号(1013・七)

巻頭言 語る力

巻頭論文 教育・研究と社会貢献

座談会 世界で活躍する人材を養成するための真

の外国語教育とは

吉田研作／鳥飼玖美子／鈴木佑治／高島健造／

（司会）仙波憲一

SNSと共存する社会へ

貸与型奨学金の本質について考える——学生の持

来のために

特集 学生に海外体験を——留学のススメ

グローバル大学を目指して——早稲田大学の事

例

羽ばたけ日本発の世界市民

地方大学で考えた「グローバル人材の育成」

坂田 隆

私学の個性とグローバル人材の育成 山田史郎

多くの学生が海外留学を体験する仕組みを

——海外留学は、グローバル人材へのはじめ

の一步 福田好朗

「グローバル時代の強い個」の育成のために

勝 悦子

明日への試み

中京大学工学部

新しい工学の教育を目指す

小特集 大学評価と改革の展望

大学の質保証と情報公表——大学ランキングを

超えて

大学ランキングとの付き合い方

「大学ランキング」二十年に見る大学評価

小林雅之

ずいそう

成長戦略とグローバル人材

島田精一

わが街——大学のある風景

多摩の開発とめかい編み——東京都多摩市

わが大学史の一場面——日本の近代化と大学の歴

史

日本の高度経済成長との相似性

加盟校の幸福度ランキングアップ《博物館編》

ユニバーサルな博物館を目指して・南山大学

黒沢 浩

来館者・学生に近い博物館を目指して・東海大

学

博物館はおいしい・東京農業大学

クローズアップ・インタビュー

作家 朝井リョウ氏に聞く（聞き手）山岡三子

新会員代表者紹介

廣瀬良弘（駒澤大学）

新学長紹介

野島正也（文教大学）

大学点描 武蔵大学

だいがくのたから 国際基督教大学（ICU）

第三五二号(1013・九)

巻頭言 変化する時代と大学

巻頭論文 医学教育のあり方——深い混迷の中で

座談会

社会人の「学び直し」に大学は応えうる

のか

白井克彦／千原陽一／苅宿俊文／徳田賢二／

（司会）小林直毅

被災学生支援、被災大学支援を風化させないよう

に——東日本大震災の被災地におけるシンポジ

ウム二〇一三参加報告 大日方聖信

特集 求む！理系女子のちから

理系女性研究者の活躍と未来に向けて

小館香椎子

理系を身近に——「科学のマドンナ」プロジェクト」の試み 松本和子

リケジョ獲得への道——女子が女子を呼ぶ 山下 修

SSH指定から七年、その成果と課題——私立女子校で理系進学支援をどのように展開したか 秋山繁治

理系女子のためのサービス「Relie」の今までとこれから 砥上雅夫

リケジョ（理系女性）の女ゴコロのわかる家づくり 重松宗孝

明日への試み

関東学院大学看護学部

地域社会の健康と福祉に貢献する人材を

矢田真美子

京都精華大学ポピュラーカルチャー学部

大学で学ぶ／創るポピュラーカルチャー——音楽とファッションを二つの核として 斎藤 光

小特集 国内キャンパスにおける国際交流の推進

グローバル・キャンパスの役割と可能性 倉林真砂斗

共に学ぶ異文化交流——国際学生寮を中心とした留学生、一般学生、地域住民の交流 山本英一

キャンパス内グローバル教育の試み 清水敏成

「Let's International」で始まる学内交流 若尾晃弘

ずいそう

学校や地域の、身近な戦争の記憶 奥平康照

わが街——大学のある風景 大学キャンパスが守る街の自然環境——兵庫県西宮市 野崎玲児

わが大学史の一場面——日本の近代化と大学の歴史 佐々木哲夫

世の光わがほこり いざほめよや友よ（校歌より） 伊藤 遊

加盟校の幸福度ランキングアップ《博物館編》マンガの可能性を広げる「実験」の場・京都精華大学 安齋 寛

ブタもウシもウマも大切な標本・日本大学 尾崎健夫

歴史的建造物を生かした博物館・早稲田大学 クロウズアップ・インタビュー 有賀明美さんに聞く

ウェディングプランナー（聞き手） 山岡三子

大学点描 松山大学

だいがくのたから 武蔵野大学

第三五三号(1013-11)

巻頭言 明るく、楽しく、元氣よく 一ノ渡尚道

巻頭論文 わが国の大学教育は「遅れている」のか 山田徹雄

座談会 サービス・ラーニングの学びが学生にもたらすもの 難波美都里／平山喜雄／石生義人／山口洋典／（司会）音 好宏

新しいオープン教育に関するわが国の現状と将来 私立大学フォーラム——平成二十五年度前期総括 広報・情報部門会議（フォーラム） 深澤良彰

特集 奨学金政策の今、そしてこれから 大学授業料と奨学金の現状と戦略——教育機会の格差は是正のために 小林雅之

入学前予約型給費奨学金の意義と役割——慶應義塾大学「学問のすゝめ奨学金」 佐藤 朋

学習意欲と学習計画を基盤にした学生への経済的支援——グローバル・コミュニケーション 示村陽一

学部での育成型奨学金 東北出身学生を多く抱える大学の震災後の実情 石塚秀樹

日本学生支援機構の奨学金事業 民間財団の奨学事業紹介——三菱UFJ信託奨学財団六〇年の活動から 羽成 一夫

明日への試み 名古屋学院大学法学部 遠藤賢治

導入教育と少人数制演習教育 東洋大学食環境科学部 林 清

超高齢社会が求める人財の育成——東洋大学食環境科学部の新設

環境科学部の新設

小特集 今、大学は「平和」にどう取り組むか

——学徒出陣七〇年の節目に

「あの戦争」を学生に引き寄せる試み——「慶應義塾と戦争」アーカイブ・プロジェクト

都倉武之

被爆教育を起点に「平和を実現する人々」を育てる平和教育へ

宇根 治

多元的な「平和学」から「市民的価値」を学ぶ

——恵泉の「平和学」という視点 上村英明
語り継ぐ「今」を考える——番組制作の現場から
岸本達也

ずいそう

人生の大切な羅針盤

園城義孝

わが街——大学のある風景

「桜のトンネル」のある風景——東京都世田谷区桜上水
加藤直人

わが大学史の一面——日本の近代化と大学の歴史

伝統を超える変革への挑戦
村上 亨

加盟校の幸福度ランキングアップ《結婚式編》

Campus for Wedding Campus for Life

田淵 結

ホスピタリティ・ウェディング——本物の結婚式によるホスピタリティの学び
徳田行延

正規授業で仏式結婚式——東北復興の願いを込めて
木村秀明

クロースアップ・インタビュー

古美術商・西洋アンティーク評論家 岩崎絢昌氏に聞く
(聞き手) 山岡三子

新会員代表者紹介

前田徹生(桃山学院)

錦織一郎(大阪女学院)

梅村清英(梅村学園)

新学長紹介

馬場明道(兵庫医療大学)

大学点描 東洋学園大学

だいがくのたから 立命館アジア太平洋大学

第三五四号(1014・1)

巻頭言 しなやかでゆるぎない

若原道昭

年頭所感 私立大学の将来のために

清家 篤

巻頭論文 国際化、都心回帰、そして宗教

ミカエル・カルマノ

座談会 大学は、二〇二〇年問題にどう向き合うか——一八歳人口の減少から大学の今後の行方を考える

清家 篤／天野郁夫／河田悌一／板東久美子／(司会) 仙波憲一

私立大学フォーラム——平成二十五年度後期総括

広報・情報部門会議(フォーラム)

特集 変わる大学図書館と学修支援の広がり

大学図書館とデジタル時代の創造力 柴野京子

大学図書館のモデルケースを目指して

勝又美智雄
マイライフ・マイライブラリーの今——東京女子大学図書館における学習支援の現状と今後の展開

滝口太郎
主体的な学修を支える図書館を目指して——立教大学池袋図書館の試み

豊田由貴夫
多様な学修スタイルへの対応を目指して

寺西 浩
学修支援ツールとしての《共読ライブラリー》プロジェクト——読書と学修支援の新しいカタチ

中嶋 康

明日への試み

共立女子大学看護学部

女子大学看護学部の現代的意義

大関武彦

小特集 オープンキャンパスのこれから

ジュニアキャンパス——京都大学の例

鈴木晶子

社会人向けオープンキャンパスの実践——城西国際大学環境社会学部の試み

鈴木弘孝

学生と共に運営するオープンキャンパス

西田昌司

高校生を志願者に変えるSNS活用事例

江藤知治

ずいそう

地域再編とご当地キャラに思う

柿野欽吾

わが街——大学のある風景

スポーツ・街のきずなの風景——北海道札幌市

南区

わが大学史の一場面——日本の近代化と大学の歴史

山田清志

至誠Sincerity・質直Simplicity

杉浦勢之

加盟校の幸福度ランキングアップ《結婚式編》

重要文化財の学び舎で誓う、永遠の愛・同志社

大学

片瀬慶子

母校のお社での挙式 格調高く、厳かに・國學院大学

院大学

中條 豊

青春の思い出 松大キャンパスで結婚式を！・松山大学

松山大学

松山大学経営企画部経営企画課

クローズアップ・インタビュー

式年遷宮記念せんぐう館初代館長、神宮禰宜

小堀邦夫氏に聞く

(聞き手) 山岡三子

新学長紹介

笠貫 宏(東京女子医科大学)

大学点描 筑紫女学園大学

だいがくのたから 城西国際大学

第三五号(1014・III)

巻頭言

「個性を育む偏差値」No.1 加藤映子

巻頭論文

産学連携でグローバル人材育成の時代

へ

池島政広

座談会

いま大学に求められる情報倫理教育とは

玉木欽也/長谷川元洋/高橋隆男/ (司会) 兼

高聖雄

労働契約法の特例措置の意義と私立大学の人事政策上の課題

清水 敏

目指せ！世界にはばたくグローバル人材！

——第1回Go Global Japan Expo報告

有賀 理

特集 大学のブランディング

大学にとってブランドとは何か

田中 洋

「大学ブランド力」を高める広報活動

中村美穂

大学の「動的ブランディング」に向けて——東京経済大学の事例

関沢英彦

理念に基づくブランド広報戦略

大場茂生

ブランド創生の意義と大学の広報活動

齊藤一誠

明日への試み

石巻専修大学人間学部

地域と共に生きる人間学部

山崎省一

創価大学看護学部

生命力を引き出す慈愛の看護師を育成

中泉明彦

小特集「グローバル人材」育成に潜む危険にどう

備えるか——大学の海外危機管理体制を考える

大学のグローバル化と危機管理 塚本俊也

アシスタンス会社から見た大学の安全管理・危機管理

機管理体制——現状と課題 中村佳恵

海外留学リスクに備える事前研修の重要性

小嶋 哲

派遣留学におけるリスク回避・危機管理

森田典正

ずいそう

現役世代の責任

わが街——大学のある風景

落合の歴史と文化——東京都新宿区落合

わが大学史の一場面——日本の近代化と大学の歴史

理念をもとに大学を創る——聖学院大学の例

阿久戸光晴

加盟校の幸福度ランキングアップ《コラボレーション編》

市役所と企業を対象とした社会連携事業・実践

女子大学 城島栄一郎

江古田の街と大学をつなぐ屋上養蜂・武蔵大学

丸橋珠樹

地域と大学が一体となる特別な日——常磐大学

×水戸ホーリーホックコラボデー・常磐大学

村中 均

クローズアップ・インタビュー

歌手・タレント 円 広志氏に聞く

(聞き手) 山岡三子

新学長紹介

規矩大義(関東学院大学)

大学点描 大阪女学院大学

だいがくのたから 国際大学

●学長会議第二回全体会議開催

平成二十六年一月十四日、アルカディア市ヶ谷にて、「高大接続と大学入試改革」教育再生実行会議「提言」を踏まえて」をテーマに開催した。個々の私立大学はもとより、私学教育が依拠する多様性と自律性の観点から、高等教育の接続・連携と大学教育のあり方について、三つの課題を討議の柱に据え考察する機会とし、六五大学七一名が参加した。

●「学生支援研究会」開催

私大連盟学生委員会では、平成二十六年三月六・七日、京都東急ホテルにおいて「学生支援研究会」を開催。「大学の学生支援はどこまでやるのか」とするテーマのもと、四四大学より一〇六名の教職員が参加した。

お知らせ

本誌「大学時報」は、日本私立大学連盟のウェブサイトより本文を閲覧できます。

http://www.shidairen.or.jp/activities_daigakuin

□「大学のブランディング」について、さまざまな立場から論じていた。高校生に選ばれる大学。保護者や教師が推薦する大学。企業等から学生を採用したいと思われる大学。卒業生から母校であることを誇りに思われる大学などなど、ブランド力を測る指標は数え切れないほどあるが、共通点は「信頼できる大学」ということであろうか。

文中でも述べたが、今、大学はさまざまな期待に応え続けることを社会から要請されている。それに対して使命感を明確に提示しながら応え続けることにより、大学は、「理解」「信頼」を得て、ブランド力を上げていけるのだと思う。言うは易しと言われそうだが、そもそも私立大学は、歴史の深浅に関係なく、各々独自の理念を有している。ブランドを追求できる条件が整っている。あとを取り組むか否か、という問題ではないだろうか。（広報・情報部門会議「大学時報」委員・立命館大学総合企画部広報課長 大場 茂生）

かに派遣され、各地の大学を転々と訪ね歩いたことがある。学生の海外留学もまだごく一部の話で、資料は紙媒体、通信手段は手紙か電話（国際電話料金も高かった）だけの時代。研修成果はもちろんだが、女性で單身ということもあり、仕事の環境として派遣されている以上、無事故で帰るということが一番に考えていた。それが今やウェブで簡単に海外情報が入手でき、メールでの頻繁なやりとりも可能になった。各大学での留学・海外体験プログラムが充実し、文部科学省も留学促進事業を開始。一時減少傾向だった派遣留学生数も増加しつつある。個人旅行などで海を渡る者も多い。一方、海外が身近で気軽になった分、学生が事件や事故などに巻き込まれる、あるいは引き起こすリスクも高まった。今回の小特集は、グローバル人材育成を進めるため、大学はより一層の責務と覚悟も必要とされていることを教えてくれる。（広報・情報部門会議「大学時報」委員・早稲田大学広報室広報課 月田 陽子）

□二月に関東を襲った記録的な大雪が、至るところで車の立往生や集落の孤立を生んだことは記憶に新しい。関東で降る雪が命を脅かす出来事になろうとは、よもや誰も想定していなかったことだろう。しかしながら、想定外の出来事に備えておくことの大切さは、東日本大震災が起った際に、誰しもが痛感していたはずである。

今号の小特集は、海外における危機管理に焦点を当てて寄稿いただいたが、海外であるなにかかわらず、危機管理の根底には、組織の体制整備の構築は言わずもがな、各個人の危機管理意識の底上げを図ることが共通した課題としてあるのではない。か。備えあれば憂いなし、今一度、組織においても家庭においても、危機管理体制の再確認をお願いしたい。

全国各地に開設されている加盟大学のある地域や街を紹介する連載企画「わが街——大学のある風景」は、今号をもって終了する。一六年にわたる連載をひとくとく、そこには地域や街と共存しながら歩んできたもう一つの大学の歴史が存在していた。次号より、新連載企画「私の授業実践——最前線の教育現場から」をスタートする。お楽しみに。（日本私立大学連盟事務局 春名 貴明）

澤井 勇氏（実践女子学園元理事長）
2月19日胃がんのため逝去。74歳。

一般社団法人

(大学名 A B C 順)

は同一学校法人

(124大学 平成26年3月20日現在)

[illegible]

大學時報

第63卷355号（通巻369号）
平成26年3月20日発行

編 集 人 音 好 宏 (上智大学文学部教授)

發行人 仙波 憲一 (青山学院大学学長)

発行所 一般社団法人 日本私立大学連盟

〒102-0073 東京都千代田区九段北4-2-25

電話 03-3262-4362 FAX 03-3262-4363

<http://www.shidairen.or.jp>

印刷所 凸版印刷株式会社

〒112-8531 東京都文京区水道1-3-3

小林大司	林直聖	毅弘	(法政大学社会学部教授)
中井善簡	日方弘	信弘	(上智大学社会学部局長)
高木高	井木弘	幸爾	(関西大学広報課長)
高木大	見弘	南敷	(関西学院大学入試部長補佐)
木村大	村見	雄太	(慶應義塾大学法学部教授)
月場大	田見	生太	(日本大学情報理工学部教授)
春林大	藤見	貴明	(南山大学芸術学部教授)
		代	(立教大学学生部学生厚生課)
			(立命館大学総合企画部広報課長)
			(早稲田大学広報室広報課)
			(日本私立大学連盟事務局)
			(日本私立大学連盟事務局)

